

おれんじ通信

33

知って支える認知症

自分らしく生きる② 若年性アルツハイマー型認知症 Aさんに話を聞きました

若年性アルツハイマー型認知症と診断されたAさん(60代男性)。話をしていると楽しく、時間が過ぎるのも忘れてしまいます。Aさんは地域包括支援センターの関わりの中で、他の若年性認知症の方

たちとの出会いの機会をもち、笑顔で過ごす時間が増えています。「身体は元気だし、仕事をしたい気持ちはあるが、現状難しい。自分ができるのは認知症の人と出会い、元気な自分を見てもらってその人を元気づけること」と話すAさん。

認知症の方やその家族が「認知症になったらおしまい」と思うか否かは、周囲の環境が大きく影響

します。「生活を変えることなく、工夫して暮らす。先は見えないけれど、笑って楽しく過ごしたいと思う。」「認知症」である前に、1人の「人」としてのAさんの言葉です。

認知症とともに生きるAさんといっしょに、「認知症になっても安心して暮らせるまち・東大阪」をめざします。

◇

◇

今回は「認知症初期集中支援チームについて」です。なお、おれんじ通信への意見をお寄せください。

■地域包括ケア推進課 (06(4300) 3013、FAX06(4300) 3814